

確認事項について [ 山形県 対象：(独) 国立がん研究センター研究所 ]

確認事項	回答
<p>① 国立がん研究センターには、メタボローム研究分野サテライトはなく、例えば発がん機構研究グループはあるが、メタボロームはそのごく一部にすぎず、各グループの研究者が研究課題に応じて参集しているものである。何を移転する提案なのか具体的に示されたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立がん研究センター研究所（以下、「がん研」）と慶應義塾大学先端生命科学研究所（以下、「慶應研究所」）の相互合意に基づく、共同研究という位置づけのもと、がん研からの研究員の派遣を想定しているものである。</li> <li>・これにより、がん研にとっては、メタボローム解析によるがんの機構研究が効率的に進捗することが期待できるとともに、慶應研究所にとってはがん研究分野での知見の蓄積が一層計られることとなり、双方にとってメリットがあるものと考えている。</li> <li>・具体的には、①がん発生・進展制御研究及び②発がん分子研究の二つの研究テーマによる2研究グループの一部が、派遣されることを想定している。</li> </ul>
<p>② メタボローム研究分野サテライト拠点を山形県に設置した場合、設置後の運営に関して、メタボローム研究分野に対する人的、物的、経費的支援の具体的内容について資料を提示されたい。</p>	<p><b>【人的支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慶應研究所の研究者との共同研究により、効果的・効率的な研究がなされる。また、慶應研究所の研究者等に対する支援に準じて、派遣される者の居住環境の確保等に対して、そのノウハウを活かした支援を行っていく。</li> </ul> <p><b>【物的支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入居先である「鶴岡市先端研究産業支援センター」の研究室の賃料に関する減免措置を考えている。</li> </ul> <p><b>【経費的支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慶應研究所では、山形県・鶴岡市からの支援を活用し、医療分野などの研究を推進していく。</li> <li>・県・市による支援により、慶應研究所が整備した世界最大規模のメタボローム解析装置群を活用できる。</li> </ul>
<p>③ 山形県と鶴岡市は慶應義塾大学先端生命科学研究所に対して、一定規模の金額を支援しているとのことであり、その金額の水準と比較して提案の支援で十分と考えるか。またその根拠は何か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県と鶴岡市は、慶應研究所の開設以来、慶應研究所の教育活動に対し、4期にわたって一定規模の支援を行ってきており、その中で、最先端のメタボローム解析技術の医療、農業・食品、環境分野における応用、地域の人材育成、人的交流の促進などに取り組んでいる。今後も医療分野の研究に活用していく予定である。また、慶應研究所は世界最大のメタボローム解析装置群の整備を図り一大拠点となっており、これらの解析装置群を活用して理化学研究所と今日まで10年間にわたり共同研究を推進し、継続中である。慶應研究所との共同研究を通して、がん研も理化学研究所と同様に恩恵が受けられる見込みである。</li> </ul>

<p>④ メタボローム分野の研究に携わっている研究者は他分野の研究を複数行っているが、移転後はこうした他分野の研究が困難となることについて、どのような対応をとるのか見解をお示しいただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究グループのうち、グループ長や研究員は、他分野の研究との両立の必要に応じて、がん研・慶應研究所の双方に研究拠点を持つような柔軟な運用も想定されるのではないかと考えている。</li> </ul>
<p>⑤ サテライト拠点の設置により、メタボローム分野の研究をがん研究に活かしていくために、どのように共同研究を進めていくことを想定しているのかお示しいただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メタボローム解析はがん細胞の代謝物質を網羅的に一挙に解析する技術であることから、正常細胞との比較による「がんマーカー」検出に大きな力を発揮する。このため、新しい「がんマーカー」による次世代のがん診断技術の開発を目指して、現在、慶應研究所と鶴岡市が連携して疫学コホート研究である「鶴岡みらい健康調査」（市民1万人対象）を実施しており、こうした研究との連携も期待している。</li> <li>また、今回想定している研究テーマである「がん発生・進展制御研究」及び「発がん分子研究」にとって、メタボローム解析は強力な武器となるものである。</li> <li>慶應研究所は、既にごがん研とメタボロームによるがん代謝経路に関する共同研究を進めており、慶應研究所が入居している鶴岡市の研究施設に、同研究センターの同研究分野グループが拠点を構え、同じ場所で一緒に共同研究することができれば、技術開発のスピードが格段に向上することが期待できる。</li> </ul>